

平成11年9月16日

**光ネットワークと情報家電を使った情報流通ビジネスの共同トライアルを開始
----2000年4月よりFTTH金沢トライアルを開始----**

日本電信電話株式会社
松下電器産業株式会社
松下通信工業株式会社

日本電信電話株式会社(以下N T T、本社東京都千代田区大手町、宮津純一郎社長)、松下電器産業株式会社(以下松下電器、本社大阪府門真市、森下洋一社長)、松下通信工業株式会社(以下松下通信、本社神奈川県横浜市、川田隆資社長)の3社は、F T T H(*1)を利用した情報流通ビジネスの共同トライアル(以下、F T T H金沢トライアル)を2000年4月から1年間、石川県金沢市において実施することに合意しました。

F T T H金沢トライアルは、今後大いに発展していくことが期待される情報流通の仕組み作りの一環として、「光ネットワークサービスの特徴を活かし、情報家電を使った地域向け情報流通ビジネス」のトライアルを3社共同で行うことを目的としており、F T T H金沢トライアルの取り組みによる実証実験結果が地域の生活向上ならびに情報流通市場の活性化に大いに役立つものと考えています。

F T T H金沢トライアルでは、地域の拠点となる情報流通サービスセンタのシステム及び生活情報等の開発を通じて、情報流通の仕組みを実現するビジネスを共同で検討します。

具体的には、北陸松下ライフエレクトロニクス株式会社(本社石川県金沢市、井戸田誠二社長)が情報流通サービスセンタとして生活情報の発信基地の役割を担います(別紙参照)。N T Tは既存光ネットワークを最大限活用し、トライアル参加者と情報流通サービスセンタの間の「L A N型光ネットワーク」(最大速度10M b p s)を整備し、相互に接続します。そして、N T Tと松下グループが共同で、光ネットワークと情報家電を使った生活情報提供やマイコンテンツ配信(*2)などのサービスを開発し、ユーザインタフェース、ネットワークと情報家電が整合・協調する条件などの検証を行います。トライアル参加者は、中高速なインターネットアクセスサービスも利用できます。

将来的には、F T T H金沢トライアルを踏まえて、地域コミュニティを全国サイズの巨大情報流通市場に拡大し、全国各地域に根づいた新しい情報流通市場を創出していきたいと考えています。

*1 F T T H (Fiber To The Home)

通信アクセス網において、一般家庭までの配線ケーブルを光ファイバ化することです。光ファイバは、広帯域でのサービス拡張性が優れているため、今後の情報流通社会を支える主要インフラとして大きく期待されています。

*2 マイコンテンツ配信

自作の写真や映像や音楽、さらには仲間と旅したアルバムや自分史などのコンテンツが、プロが作ったような出来ばえであれば、積極的に発信したくなります。このようなコンテンツを作成するための素材を利用したり登録したりできる仕組み、さらにコンテンツ作成の助言や請負が受けられる仕組みをマイコンテンツ発信といいます。

別紙

- ・ [図.「FTTH金沢トライアル」の概要](#)

【本件お問い合わせ先】

N T T 武蔵野研究開発センタ R&D広報担当 倉嶋、佐野、大崎

0422-59-3650 F0422-59-4398 koho@smart.netlab.ntt.co.jp

松下電器 広報本部東京広報部 新聞・放送グループ 坂本

03-3436-2621

松下通信 広報部広報2課 遠田

03-3438-9203



[NTT NEWS RELEASE](#)